

令和3年度 瑞雲こども園職員 自己評価表について

園の基本姿勢について（5項目）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

第1章 総則（47項目）

幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本及び目標等

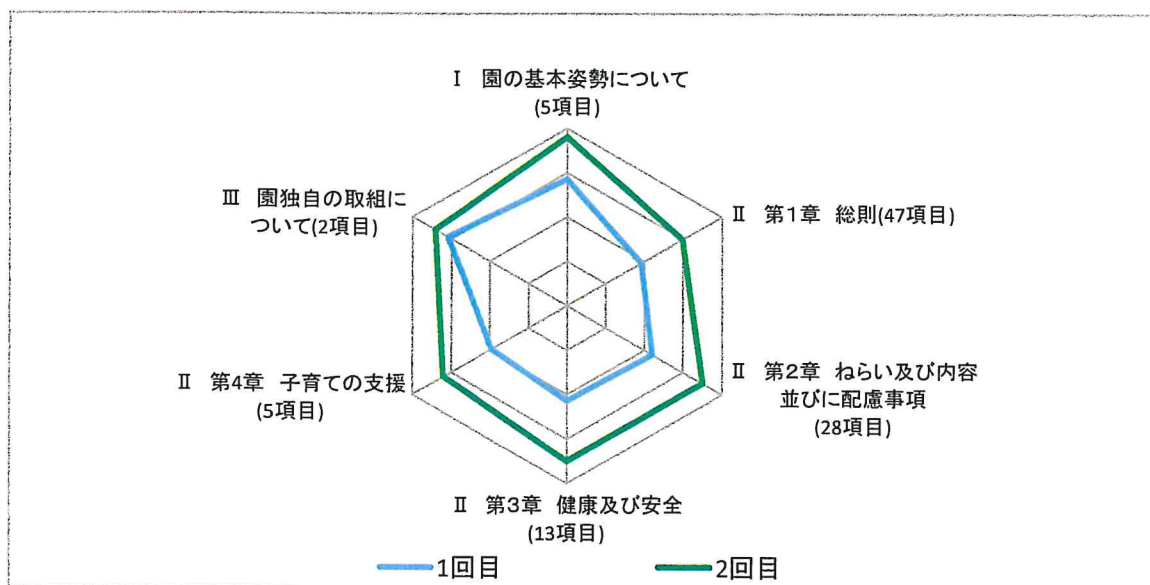
第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項（28項目）

第3章 健康及び安全（13項目）

第4章 子育ての支援（5項目）

園独自の取り組みについて（2項目）

以上、100項目を自己評価し、今年度の反省をもとに次年度の改善内容を検討していきます。



今回の評価が低かった3項目についてお知らせします。

Q49 園児の発達の連続性を考慮した教育及び保育を展開する際には、満3歳未満の園児については、園児一人ひとりの育成歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成し、満3歳以上の園児については、個の成長と、園児相互の関係や協力的な活動が促されるように考慮している

改善→引継ぎの書類等クラス全員で目を通し、共通した中で保育を行うようにする。個別な計画を立てる際にも本児の育成歴や発達に合わせたものを多面的な意見のもとで作られるように話し合って作成できるようにする。

Q97「自園がもつ地域性や専門性などを十分に考慮して、その地域において必要と認められるものを適切に実施している。

改善→地域における子育て家庭の保護者等に対する支援、という項目である。自園の子育て支援センター「カンガルー広場」は、コロナ感染症拡大を懸念しながらも、消毒の徹底、参加人数の制限を行い、開所できていた為、職員にその旨を発信、認識を深めるようにする。

専門性→コモンセンスなどのコミュニケーションのあり方や相手の気持ちになって考える心の教育を全職員が出来るよう知識を深めていく。

Q98 認定こども園として地域の子どもが健やかに育成される環境を提供し保護者に対する子育ての支援の総合的な提供を推進するため、地域における乳幼児期の教育及び保育の中心的な役割を果たせるよう努めることを知っている

改善→今年度は、コロナ感染症拡大を懸念するという観点から、地域との交流が限られたが、来年度は交流内容など知らせ、園全体での動きを職員に知らせていく。

全体評価	園長	北沢道子		副園長	梶浦邦康		保育サービス委員会責任者	本田淳子	
------	----	------	---	-----	------	---	--------------	------	---